

記録

登田郷宇山集會の記

天正の古戰場と通つての午後、宇山吉田家へ  
録音テープかと思ひましたもの。(井茶病床録取)

先づ高木会長のはじめの言葉、立川先生のごあいさつ  
をいれたい後

(加藤) 弥生には文化財が多いて丁な、委員さん達が実力  
があるから、

(伊賀) 先頃出来上つた西運寺の山門の修葺、何十万円も  
かけて指定文化財の維持、小さい町で、こんな例は  
ないと思う、誇りに思っています。

(岩田) 佐伯市の方で何か呼びかけて、予算と貰おにやど  
もならん。

(市瀬) 具体的にこれこれするからと、大いに予算を獲得  
して、標識板を走ることですな。

(村井) 基礎調査が出来ていないのではなにか。  
文化財の標識板の箇所が選定ですな。

(高木) 文化財調査委員会が出来ているが、それが一向進  
まぬようだ。

(加藤) 調査委員としては、会の方から羽柴、市野瀬両先  
生が入っているんだか。

(岩田) 外部から、史談会などが要求すれば尚更やりよ  
うな状態になつていゝるのではなにか。

(河野) 標識板は城山中心には出来ている。今後は殆んど  
走つていない登田に走らせてはどうしよう。

(加藤) 一応順序を立てて、去年五枚、今年五枚ほど建て  
ている。城山に二枚、陰を入れて、三十九に一枚、

又成寺に中島子玉の墓、善賢寺裏毛利家墓所に一枚  
それから招魂所に一枚、及んで六枚ですな。

(伊賀) 親父宗匠板もいいてすが、一番急がねばならぬの  
は文化財の指定でしょうね。指定すれば標柱は出来  
ると思つた。

(加藤) 去年五枚所は指定候補ということですか。

(河野) 文化財指定はいつにせよな。

(岩田) 弥生町がよいには出来んわい。——一回大笑。

(吉澤) 今日行つた千人原には、標識が三枚いるな。

(加藤) 碑(日輪当午塔)そのものは済ませればいけないが、  
常楽寺の鰐口もすぐ指定したい。

(吉澤) 銘文は?

(加藤) 佐伯佐伯惟直、年号は何ちやつたか。

(五十川) 鰐口は佐伯地方には多いですか。

(村井) 古い朽ち果てた仏像が三株あつたが、それが  
ら錦の鞍があつたが。

(加藤) 市の方では布は今なくなつていゝる。お寺そのものは  
今は無住になつていゝる。ア、鰐口の年号は文安。

(岩田) 皆さんに私はお伺いしたいんですが、今日見たい  
人象、日輪当午塔とどんな意味でしょうか。一志

日輪は太陽、午はまひる。今まで祀りてはなかつた  
か多くならぬ鬼が、この供養によつて日に当る、とそ

んな意味でしょうか。

(伊賀) やつぱりこれは陰陽の学問から来ているのではな  
いでしょうか。こらあ、お坊さんに左ずねて見よ

うな。

(高木) 彼は且て江國寺の亡くなつた和尚さんに聞いて見  
たことがあるが、おかるなかつた。

(伊賀) 佐伯史談に益田先生かくわしく調べて出している。  
(岩田) 足田先生にきいて見たことがあるが、はつきりし  
まかた。

(河野) 養徳寺の老師にきいたら、仏指について字引は  
要らん、くわしい。

(高木) 明日、老師にきいて見よう、海福寺の死んだ和尚  
の一周忌で老師もまいらうから。

(村井) 日輪でなくて、月輪ではなかつたか。  
(これはやはり日輪ということにきまつた)

(伊賀) 佐藤桐水はどこの人か。  
(吉藤) 宇山の人で学者、俳人であつたといひます。

(立川) 身ななの師説明であつた塔は三蔵移されたそうだが、  
それはどこからどう移つたか、そしてどういふわけ  
で移したのかあからんですか。

(岩田) それかばつきりわからんのです。はじめに長瀬原  
の川上にあつたのを、尚整が志望せらう下に移して、  
植林の邪魔になつて現位置に移したそうです。

(河野) 長瀬原へ、今農家が四軒ある、そのおをりか跡場  
ではなかつたかと思ひますか。

(市原) いつこゝも尚整したんでしようか。  
(岩田) 旧藩の破湖田、しかし水が寒らんで農田になつ  
たといふが、かまひ昔らしい。荒地になつていたの  
を、明治二十三年開拓団がはいつた。然し生活が出  
来んといふので他に移り、現在の家が建つてゐる。

長瀬原には古蹟の跡を示すものは少なく、僅かに  
五輪の塔の壁が一つと、堀の中に南無阿弥陀仏と彫  
つた供養塔が残つてゐます。

(加藤) あの番五洲の戦は何年な。

(高木) 同卜年、天正十四年や、長瀬原より土藩五洲が  
ちよつと前になる。

(加藤) 島津勢が堅田に侵入して来たのは何故か。  
(村井) 宇月の朝日殿から進攻するに最近距離にある。

(吉藤) 朝日殿から赤木谷に入つて来た、この道が便利な  
(村井) 朝日殿の土持勢が来たので堅田に来たと思ふ。

(古藤) 当時は、ゲリラ戦をよくやつてゐる。  
(高木) 岸河内の放火と榑牟礼城から望見し、軍師山田匡  
徳は島津勢と判じたといふ。然し謀報、スパイを使  
つていて島津勢の侵入はわかつてゐたはず……。

(加藤) 島津は何で堅田に来たか、食糧とりではないか。  
(古藤) 陰曆十一月だから、もう米は収穫してゐる。  
(岩田) 軍師山田のことである。おと明けでゐたのでは  
ないか。

(村井) はじめの堅田合戦、大内勢の来寇は、榑牟礼の戦い  
と関連がある。

(加藤) 常楽寺麴口の文安は、その嘉吉よりあまり下つて  
いないのなら、堅田には佐伯勢の何かがあつたと思  
はれるが……、堅田と佐伯氏の確たる記録は？

(高木) それに弘安四回帳であらう。  
(吉藤) しかし弘安四回帳も何程何本と七冊もあり、両面  
積が少しづつちがう。で必ずしも当てにならぬ。

(岩田) 高城を本拠地とした場合、出城が(と一しきり出  
城考察あり)

(伊賀) 大友氏氏入国以来は、その序状はすつと榑牟礼  
ではないか。小倉の地名も出ぬ、加納などの姓氏か  
らも考えられる。

(加藤) とにかく堅田には何かあつたのではあるまいか。  
(高木) 上ノ台居館跡は相違あるまい。

(吉藤) 高千穂の神社に惟治の土社寄進状がある。注目してよいうではないか。

(高木) 嘉吉元年、惟世、そしてその子惟治の大永七年、この間が八十年ある。親子にしては長すぎる。誰か解明してくれんか。

(吉藤) とにかく、十代以前は佐伯氏ははつきりせぬ。

(市原) 最近テレビで日本史探訪を見ているが、ヤマ海音寺湖五郎氏は鹿児島の方で天下切つての歴史小説家。非常に史料に忠実な人であるが、その言うのは、歴史小説は史実の美化で、文芸として美しさを加へると、そうすると、大友興廢記には藤原軍は負け、たことになつてゐるが、最終的に黙して負け方があるかどうかが、

(竹井) それは局部的には佐伯勢が勝ち、大友勢には島津勢が勝つてゐる。

(市原) その大友興廢記の真实性はどうか、史料としての信憑性はどうか、本当に勝つたのか。

(吉藤) それはまちがいない、秀吉が義統への感状で明らかである。

(市原) 佐伯氏関係はよいのではないか。

(高木) 興廢記は佐伯氏の造臣が書いてゐるし、佐伯氏に關する史料は外にないので、大友興廢記に依る外はない。

(吉藤) 一代を大友氏研究にささげ、北氏の研究によると、大友氏の興廢の歴史は、兼鏡義統のころにある程度正しいが、兼鏡以前は佐伯氏が少ない。なだし石寛政十四年に書かれたものだから、ということになつてゐる。

(市原) 史上、遠征軍は殆んど負けてゐる、それから推し

て……(以下敬音不良)

以上は三月末本会にて購入のテープレコーダの録音、長い録音をどんでん返し、録音のニエンスを返して記録になおしたものを、今度、現物録音や他五集会等には活用しよう。  
尚この録音は多少保存、会費の趣用にあつても、ガゼットテープにて操作至極簡便、貸出します。(謝辞)

回答集約

佐伯史談会 研修の方角

〈賛助会員の方々よりの示唆をまとめて〉

去る二月、編集者日百余の賛助会員に対し、失礼ながら標題のようなことを御教示下さるようハカキ同封でお願ひ申した。幸い四十三通の御回答を頂いたので、会費にお返し、今後研修の方角として頂きたい。

1. 「佐伯史談」は欠けなく届いてしまふようか。

每号届いてゐる(八六%) 時々来ないようだ。(一四%)  
(%)は回答四三と一〇として示す、以下もすべて)

2. 每号どんなに御覽下さつていますか。

毎号楽しんで見ている(七九%) 時々見ている(二%)  
大して読んでゐる(二%)

3. 次の項目のうちどんなの力を入れるべきか(数値百%)

- 郷土の古文書資料……………五八%
- 郷土の歴史……………六七%
- 佐伯藩の歴史……………四九%
- 郷土の文化財……………九二%
- 民俗風習……………三七%
- 郷土の自然風景……………二三%
- 郷土の芸術……………三〇%
- 政治の移り変り……………一七%